

2024年度卒業・修了 留学生の就職率等

卒業・修了者数 (A)	就職希望者数 (B)	就職者数 (C)	その他	就職率 (%) (C) ÷ (B)
9	5	4	5	80%

※2024年度卒業・修了者（学部・大学院の合計）の就職率等を掲載しています。

※学部・大学院の正規生であり、在留資格「留学」のみを掲載しています。

※日本国内での就職者のみを掲載しています。

※その他では、日本国内での進学、起業、母国への帰国・他国への留学等の人数を示しています。

※外国人学生を対象にした就職アンケートにおいて、日本国内での就職者を把握し、

希望者にメールによる情報提供を行っています。

※就職先は以下のとおりです。

株式会社グラッド・ソフトウェア

株式会社アイディエージコンサルティング

株式会社テクノプロ

株式会社コプロコンストラクション

※進学先は以下のとおりです。

京都大学大学院

千葉大学大学院

The University of Hong Kong

氏名（イニシャル）：Z・J（2025年3月卒業）

出身国：中国

内定先業種：その他サービス業

日本の就職活動や進学のプロセスで感じた自国との最大の違いは、「個人の適性や意欲を重視する点」と、「プロセスの丁寧さ」です。例えば、自国では試験の結果や資格が重視される傾向が強いですが、日本では面接やエントリーシートを通じて、その人が企業や大学にどれだけフィットするか、またどのような目標を持っているかを詳細に問われます。このプロセスは、自分自身を深く見つめ直す良い機会となり、自分の価値観や目標を明確にすることができました。

また、全体的に計画的かつ段階的な進行が求められる点も印象的でした。例えば、就職活動では会社説明会やインターンシップなど、早期から企業との接点を持つ機会が豊富に用意されており、これを通じて自分に合った企業を見極めることができます。このような丁寧なプロセスは、自国ではあまり見られないため、新鮮かつ学びの多い経験でした。

また、私のキャリア形成において、日本への留学は非常に大きな影響を与えました。異文化理解を深め、日本の価値観や働き方に触れることで、幅広い視野と柔軟な思考、そして多文化共生の重要性を学びました。更に、留学を通じて実践的な日本語能力を磨き、敬語や礼儀を重視したコミュニケーション力を身につけました。

さらに、大学で学んだマルチメディアやウェブデザインの専門知識を活かし、実践的なスキルも磨くことができました。実際に大学では、プログラミング（Java、JavaScript、Pythonなど）、ウェブデザイン（HTML、CSS、UI/UXデザイン）、そしてマルチメディア関連技術（動画編集、グラフィックデザイン）です。これらの授業を通じて、技術的なスキルだけでなく、デザインの考え方や表現力も磨いてきました。大学では、少人数制の授業が多く、キャンパス内のIT設備やクリエイティブソフトが揃った実習室で実際に手を動かして学びました。これらの経験を基に、将来は国際的なプロジェクトや日本市場を対象としたビジネスで活躍し、日本と世界を繋ぐ架け橋となる仕事に就きたいと、考えるようになりました。

改めて、就職活動では様々な苦労があり、将来の自分が何をやりたいのか、と考えたときに、今まで学んできた日本人の価値観や考え方と、自国の文化を再考する機会となりました。ここ日本で働くべきか、自国で働くべきかと考えたとき、今までの努力を今後活かすためにも、言語や文化の違いを乗り越え、日本で就職したいと考えました。異文化環境での挑戦を重ねる中で、自分の柔軟性や適応力を大きく向上させたいと考えました。これらの経験を経て、将来は国際的な場面でも活躍できる人材になりたいと考えています。

氏名（イニシャル）：Y・T（2024年3月卒業）

出身国：中国

内定先業種：機械(東証プライム上場)

就職活動を始めた頃、私は将来に対する不安や期待に包まれていました。しかし、その中で自らの興味やスキル、そして将来の展望を整理し、明確なキャリアの方向性を見つける過程が、私にとっての出発点でした。就職活動の中では、必ず内定をいただくことはありません。連続の挑戦だからこそ、私にとっての成長の源でした。例えば、エントリーシートや履歴書は何度も修正し、面接は何度も練習することが最も重要なことです。

失敗や落選の瞬間はつらいものでしたが、それらを振り返り、自分の強みや弱みを理解し、向上していくことで、より一層の自己成長が実現しました。幸運にも、多くの企業から内定をいただくことができました。これは、面接や選考の段階で積み重ねてきた努力と、自らを深く知ることから生まれたものでした。

ただし、内定を得るだけでなく、それぞれの企業が自分にとって最良の選択なのかを見極める過程が更なる挑戦でした。内定を手に入れた瞬間が、逆に最も難しい選択を迫られる瞬間でした。給与や福利厚生だけでなく、企業の文化や風土、将来の展望など、様々な要因を考慮しました。自分のキャリアプランに最も合致し、個人としての成長が期待できる場所を見つけるために、時間をかけた検討が必要でした。

成功は努力と決断の連続から生まれるものであると、改めて実感しました。模索と失敗が交錯する日々もあったが、最終的には自分の目指す未来に近づく結果となりました。努力し続けることが、良い結果を手に入れる鍵であると確信しています。

最終的な選択をする際には、自分自身が本当に求めているものにフォーカスしました。将来的なキャリアの展望や、その企業での成長の見込みが、私にとって重要な要素でした。また、同じくらい大切なのは、その企業との相性や文化が自分に合っているかどうかです。これらの要素を総合的に考慮し、納得のいく選択をすることができました。

後輩の皆さんへのメッセージとして、就職活動には時間的な余裕が必要です。特に留学生にとっては、情報収集が一層重要です。キャリアセンターでは様々な情報や求人情報が提供されていますので、迷った時はぜひ一度相談してみてください。私自身は就職活動を少し遅めに始めたため、焦りも感じましたが、キャリアセンターでの相談を通じて、自分の進むべき方向が明確になりました。就職活動はできるだけ早く始めることが重要ですが、それ以上に焦らず、慎重に進んでください。